

情報通信審議会情報通信技術分科会 CISPR 委員会（第 30 回）
議事録（案）

第 1 開催日時

平成 21 年 8 月 26 日（水） 15 時 00 分～17 時 00 分

第 2 開催場所

三田共用会議所 4 階 第 4 特別会議室

第 3 出席者（順不同、敬称略）

主査：藤原修

構成員：山中幸雄、雨宮不二雄、井上正弘、篠塚隆、塚原仁、徳田正満、
岡本和比古、上芳夫、佐竹省三、田島公博、千代島敏夫、羽田隆晴、
平伴善光、堀和行、本田稔、松本泰

関係者：長部邦廣、小玉博一、杉浦行、田中信昭、野田臣光、平田真幸、
前川恭範、林亮司、平澤徳仁（秋山代理）

一般傍聴者：1 名

事務局：岡野電波環境課長、山田電波環境課電波監視官

第 4 議事次第

1 開会

2 配付資料の確認

3 議事

（1）CISPR 委員会（第 29 回）議事録案の承認

（2）CISPR リヨン会議対処方針

（3）CISPR リヨン会議参加者

（4）その他

4 閉会

第 5 議事概要

- （1）岡野課長からの開会の挨拶の後、専門委員交代が報告され、新任 1 名（本田委員）の挨拶があった。（参考資料 30-4 『情報通信審議会情報通信技術分科会 CISPR 委員会構成員名簿』）
- （2）事務局から配付資料の確認があった。
- （3）藤原主査から冒頭の挨拶があり、IEC における CISPR の位置付けや複数試験法の扱いについての説明の後、複数試験法の問題については SMB の諮問委である ACEC は関与せず SMB が 10 月の会合で検討するとの紹介があった。さらに、徳田副主査と雨宮副主査から前回の ACEC では、複数試験法については意見表明のみで議論はしておらず、Alternative Test Method の定義の不明確さが問題であるとの補足説明があった。

- (4) 資料 30-1 『前回議事録 (案)』について修正意見があれば 9 月 2 日 (水) までに事務局あてに連絡することとして承認された。
- (5) 資料 30-2-1 『CISPR リヨン会議総会対処方針 (案)』について藤原主査および山中主査代理から概要説明があり、以下のコメントの後、承認された。
- ・ 1906 賞として杉浦前主査が候補に上がっている。
 - ・ 測定の不確かさについては、CISPR と TC77 の JTF で検討される。
- (6) 資料 30-2-2 『CISPR リヨン会議 SC/S 対処方針 (案)』について雨宮副主査から概要説明があり、以下のコメントの後、承認された。
- ・ 今回から各 WG への参加にはそれぞれの Expert としての登録が必要であり、総会参加にはいずれかの Expert 登録の上、更に Delegate 登録が必要である。このような運営法の問題点を現地で議論してほしいとの要望があった。
 - ・ Adhoc や WorkShop への参加は WEB から申し込みの確認ができないので、別途 Convener の了解を取るのがよい。
 - ・ 2010 年は 10 月開催だが、複数 SC への参加を考慮した日程としてほしい。
 - ・ 2011 年の CISPR 会議には豪州パースと韓国が立候補している。
- (7) 資料 30-2-3 『CISPR リヨン会議 SC/A 対処方針 (案)』について山中主査代理から概要説明があり、特に異議なく承認された。
- (8) 資料 30-2-4 『CISPR リヨン会議 SC/B 対処方針 (案)』について篠塚副主査から概要説明があり、下記のコメントの後、特に異議なく承認された。
- ・ APD 測定法は横軸が周波数、縦軸が確率と、現在の測定法と大きく異なるが、このような場合も代替測定法といえるか
 - － 現状の測定法に代わるものであり、許容値も変更され则认为している。
- (9) 資料 30-2-5 『CISPR リヨン会議 SC/D 対処方針 (案)』について塚原副主査から概要説明があり、下記のコメントの後、特に異議なく承認された。
- ・ 電気自動車等の充電時の放射妨害測定は AC 給電のほか DC 給電もある。
 - ・ 太陽光発電の DC 給電系の雑音測定法と共通する箇所があるので SC-B と情報交換したい。
- (10) 資料 30-2-6 『CISPR リヨン会議 SC/F 対処方針 (案)』について井上副主査から概要説明があり、下記のコメントの後、特に異議なく承認された。
- ・ 無電極放電ランプの規定については、先の国内答申結果を反映させるために

提案予定だが、もう少し時間をかけて内容を検討する。

- (11) 資料 30-2-6 『CISPR リヨン会議 SC/H 対処方針（案）』について松本委員から概要説明があり、下記のコメントの後、特に異議なく承認された。
- ・ Reference Method と Referee Method とは意味は同一である。
- (12) 資料 30-2-7 『CISPR リヨン会議 SC/I 対処方針（案）』について雨宮副主査から概要説明があり、下記のコメントの後、特に異議なく承認された。
- ・ WG2 と WG4 は 10 月に米国で開催され、CISPR32/35 を集中的に審議する。
 - ・ CISPR24 第 2 版の CDV は賛成多数で承認されたが（日本は反対）、GENELEC の並行投票では否決された。
 - ・ 日本のコメントは GENELEC と共通点もあり、反対意見を主張していく。
- (13) 資料 30-3 『CISPR リヨン会議参加者リスト（案）』について藤原主査から概要説明があり、特に異議なく承認された。
- (14) その他
- ・ SC/I の国際幹事は山口委員から堀委員に交代する。
 - ・ リヨン会議での各 SC 総会・各 WG 終了後、速やかに簡潔な概要報告書を事務局あてに送付すること。
 - ・ 各 Delegate 参加者は本日承認されたので、総務省としても WEB で承認する。
 - ・ 次回の CISPR 委員会はリヨン会議報告会として 11 月開催予定。

以 上